

ST 未来創造 II

金融教育6 まとめ 評価編



「評価課題」

【お金とは何か？】

もしもこの世に「お金」という概念そのものが存在しなかったら、現在の社会とどのようなちがいが現れるだろうか？

「お金」が持つ「光と影」、お金との向き合い方や心構えなど、お金とは何か？考えられることをできるだけ多面的に考えよ。

*文末に時数を記入すること 例；(285字)

(必要に応じて資料を参考にしてください)

評価の観点	評価規準
表現の緻密さ (50%)	5 300字以上 4 200字以上 3 150字以上 2 100字以上
多様な見方 (30%)	複数の観点から述べられているか？ 様々な事実・資料や例を踏まえて述べられているか
考え・表現の 深さ(20%)	「お金」に対する考察が表面的ではなく、 自分の考えとして述べられているか

参考資料

- お金という概念のない世界
- 足るを知る 「共有」の社会
- ある漁師町でのお話し
- 150億円を手に入れた男の末路
- 「お金」に感じる価値
- お金を使うのは投票と同じ？
- 50年前のケネディーの演説

「お金」という概念のない世界について考える

『お金の有る世界』に暮らす私が、『お金の無い世界』を考えたときに、
いの一に考えること。

それが「お金をもらうというメリットがなくなると、怠惰になって、働いたり、行動したり、挑戦したりしないのでは？」と疑問です。

だってお金が貰えないんだよ？

「なんのために働くのさ！」という労働者たちが増えて、ボイコットの嵐ですよ。でも本当にそうなるのでしょうか。

いや違うね。だってそれって『お金という概念が有る世界』の話だもの。
私が言ってるのはそうじゃない。『そもそもお金という概念がない世界』の話だ。言ってみれば、今の地球上ではもう密林の奥深くか孤島にある、外部と遮断された村にしか理解されない話だ。

さて。ここで私の中の考えを書いておくと……。

『そもそもお金という概念がない世界』だったら『お金をもらうことを始めとした、行動に対して対価をもらうというメリットすら、概念として存在しないので、怠惰にならず働いたり、行動したり、挑戦したりするのは』と思うのですよ。

「足る」を知る 「共有」の社会 (3枚)

今の私たちは十分な上にさらに十分を重ね、またさらにより高い十分をめざします。そして仮にその“高い高い十分”が、なんらかの理由で満たされなければ、自身を「不幸だ」と思ってしまう。

つまりお金の存在しない世界では「苦勞してまでも手に入りたい！」と思う傾向品などは手に入り、「そうまでして手にいれなくてもいいな」と感じているものは手に入りません。

そうして手元に残った「自分が手に入れることができたもの」は自分が本当にほしかったものであることに気づきます。

あなたの身のまわりにも「買ってみたけど使わなくなつた」や「なんとなく集めてみた」ような物はありませんか？

お金が存在している世界では、いかにお金を稼ぎストックしてはほしいものを買って…など、「自分が所有」することが重要なことが多いように思います。

しかしお金の存在しない世界では「自分のお金で買った」という概念がないので、手に入れたものを誰かと分け合うということも容易になってくるんですね。

場合によっては地域や仲良しのコミュニティ内で役割が分担され、それぞれの人が集めてきたものを皆で分け合っていくということも起こります。そういった「協力」の体制こそが、人と分け合うのが常となる世界なんです。そうやって皆で協力したらできることが増えると思いませんか？

「大切な人が幸せかどうか”がひとつの大きな価値」

今の世界では、お金をたくさん稼ぐことに喜びを見出す人もいるかもしれませんが。そして仕事を”お金”のためだけに行っている人もたくさんいると思います。

しかし、お金の存在しない世界での仕事は"お金"を理由として働くということがないので、自分ができることで価値を生み出すことこそ喜びとなるんですね。

そして自分の行動によって大切な人が喜んでくれる、幸せになってくれることこそが行動力の源。

【自分の得意分野をいかす仕事で充実感がうまれる。】

そしてその満たされた気持ちは仕事からのストレスを現在のようにはうけなくなります。

そういった心の余裕が、大切な人への"愛"をさらに深めることとなるんですね。

せっかく生まれてきたこの世界で、お金が理由で大切な時間が奪われたり命を削ることには終止符をうちたいですね。

資料；メキシコの漁師町でのあるお話(2枚)

メキシコのある小さな田舎町の漁港。漁師が網に数匹の魚を捕って舟から上がってきました。それを見た通りがかりのアメリカ人旅行者から、「素晴らしい魚だね、どのくらい漁をしていたの？」と聞かれると、漁師は「そんな長い時間じゃないよ」答えました。すると旅行者は、「惜しいなあ、もっと漁をしていたら、もっとたくさん魚が獲れただろうに」と言うと、漁師は自分と自分の家族が食べるにはこれで十分だと答えた。「それじゃあ、余った時間で一体何をするのか？」と旅行者が尋ねると漁師は、「日が高くなるまでゆっくり寝て、それから漁に出る。戻ってきたら子供と遊んで、女房と昼寝して、夜になったら友人と一杯やって、歌をうたって、ああこれでもう一日終わりだね」

すると旅行者は真面目な顔をしてこう話した。「私は、アメリカトップ企業の経済アドバイザーだ。君に良いことを教えよう。いいかい、君は毎日もっと長い時間漁をするべきだ。それで余った魚は売る。お金が貯まったらもっと大きな船を買って儲けを増やす。そして自前の水産会社を立ち上げるんだ。その頃には、この田舎町を出てアメリカに進出する。君は社長になって会社の指揮を取るんだ」漁師は尋ねた。「そうなるまでどのくらいかかるのかね」「25年もあればそこまでいけるね」「それからどうなるの?」「それからだって?そのときは本当にすごいことになるよ」旅行者はにんまり笑い「君はたくさんのお金を持って田舎町に住み、日が高くなるまでゆっくり寝て、日中は釣りをしたり昼寝をしたり、子供と遊んだり、夜になったら友人と一杯やって、歌をうたって過ごすんだ、どうだ素晴らしいだろう」

「お金」に感じる価値

1万円という紙切れには価値がなくても、そこに反映されている「感謝の気持ち」こそ1万円の価値があるということです。もちろん「感謝の気持ち」の表れは、お金だけではありません。「言葉」「態度」「いいねの数」「尊敬」「信頼」「信用」「人望」「名声」などいろいろな形で表現されます。

では、人はどんなときに、感謝の気持ちを感じるのでしょうか。

それは、抱えている悩みの解決や願望の実現を手伝ってもらったときです。悩みが大きければ大きいほど、願望が強ければ強いほど、感謝の気持ちとしてのお金をたくさん払ってもよいと感じます。

ここから、お金を稼ぐコツも見えてきます。お仕事として、誰かの大きな悩みの解決や大きな願望実現を手伝ったり、小さな悩みの解決や小さな願望の実現を本質さんお手伝いできれば、感謝の気持ちとしてのお金をたくさんもらえるとい

【資料】 お金を使うのは投票と同じ？

消費とは使ってなくすという意味です。お金も使うとなくなるので、お金を使うことを「消費する」、お金を払う人のことを消費者といいます。

選挙権のある人は選挙のときに「この人なら安心して任せられる」と思う政治家に一票を入れて、応援します。これをくり返すことで世の中を少しずつ変えていくのが選挙のしくみです。

私たちの消費、つまり買い物も選挙に似ています。私たちは「この商品よさそう」「このサービスはありがたいな」などと思って、買い物をします。それはその商品やサービスを提供している会社にも一票を入れて応援することと同じです。「いいな」と思うものにお金を使い、「よくないな」と思うものにはお金を使わない、それがくり返されることによって、世の中は少しずつ変わっていくのです。

「50年前のメッセージ」 ロバート・ケネディ 1968年カンザス大学の演説

私たちはもうずっと前から、個人の優秀さや共同体の価値を単なるモノの量で測るようになってしまった。この国のGDPは、8000億ドルを越えた。

しかし、もしGDPでアメリカ合衆国の価値を測るのなら、GDPには、大気汚染や、たばこの広告や、交通事故で出動する救急車も含まれている。

GDPには、ナパーム弾や核弾頭、街でおきた暴動を鎮圧するための、武装した警察の車両も含まれている。

GDPには、玄関の特殊な鍵、囚人をかこう牢屋、森林の破壊、都市の無秩序な拡大による大自然の喪失も含まれている。GDPには、ライフルやナイフ、子どもにおもちゃを売るために暴力を美化するテレビ番組も含まれている。

一方、GDPには、子どもたちの健康や教育の質、遊ぶ喜びは入っていない。GDPには、詩の美しさや夫婦の絆の強さ、公の議論の知性や、公務員の高潔さは入っていない。GDPには、私たちの機転や勇気も、知恵や学びも、思いやりや国への献身も、入っていない。

つまり、GDPは、私たちの人生を意味あるものにしてくれるものを、何も測ることはできないのだ。

GDPは、私たちがアメリカ人であることを誇りに思えることについて、いっさい教えてくれないのだ。もしそれが、この国において真実であるなら、世界中のどの国でもやはり真実だろう。